山岳クラブ／グーテンタータ（ドイツ語　こんにちは）

月 報 やまふみ

№217　2013 年(平成 25)年11月10日発行　　山踏み

会　　長　／ＴＭ
事務局長　　／ＫＴ
ホームページ／　http://guten-nagano.com/
編　　集　／ＴＳ　ＫＫ　ＹＵ
印　　刷　／中央プリント（株）

常念の紅葉

（羽化したばかりのツマグロヒョウモン秋の蝶）

目次

山行報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1～13
編集後記・・・・・・・・・・・13･14

9月21日(土)－23 日(月)大日岳･奥大日岳（合宿）

9 月 21 日（土）～23 日（月）　大日岳･奥大日　（合宿）
Ｌ KT　TH
行程 9 月 21 日　称名滝登山口 7:30－　大日平 9:50－　大日小屋 13:30－　大日岳往復

9 月 22 日　大日小屋 7:00－　中大日岳 7:15－　七福園 7:30－　奥大日岳 9:40－　剱御前小屋 13:40－剱沢小屋 14:00

9 月 23 日　剱沢小屋 6:00－　テン場 6:30－　別山北峰 7:30－　別山南峰 7:40－　室堂 11:00

＜1日目　標高差 1600m＞称名滝登山口からしばらくゆるやかな登山道で準備運動。その後、いよいよ急登が始まった。汗まみれになってはいるが時折吹く涼しい風に押され快適なアルバイトだ。オオバユキザサやタケシマランの赤い実を楽しみながら登る。牛の首手前で頭上をトロッコで登って行く作業者に行き会った。一本のレールに乗っているだけのトロッコなのに空中を傾きもせず人3人と荷物まで乗せていた。牛の首と言われるだけあって、岩や梯子があり、がんがん登った。と、急に緩やかな木道。「ここが長いんだよ～。」とTさん。約2㎞はあっただろうか。草原の先には大日岳が見えてきた。大日平小屋でアイスクリームの3点盛りがあったと言う。楽しみして行ったら、「今年は出来なくて･･･大日三山をイメージしているんですけどね。」と言われてしまったとのこと。残念。湿原には湖沼周囲にイワショウブ･ワレモコウが花を付けていた。またもや緩やかに登り始める。石だらけの沢？と思いきや、沢は別のラインで合流。冷たい水で汗を流し、最後の登りにかかった。山頂付近はきれいな岩が連なっている。「あの岩登れそうだ。」「中々いいじゃん。」「あのてっぺんでの～んびりしたいな。」など話しながら小屋に到着。ここで、忠告。Tさんとは大日岳山頂に行かないこと。絶対ガスに巻かれて何も見えなくなること間違いなし。今まで何回も来ているのに一回も晴れたことが無いと言う。今日こそ晴れるぞと思っていたら、休憩してさあ登ろうとすると、急にガスがまき始め山頂は何も見えない。下って小屋に着いたら嘘のように晴れわたってしまったのだから。

＜2日目　展望満喫･フルーツ三昧の稜線散歩＞大日からの展望は初めてである。先ず、薬師岳が大きく見えると言うのが不思議。剱も勿論その雄姿をナナカマドの向こうに見せた。朝寝をしてゆっくり7時出発。山頂らしからぬ石の上の中岳山頂を過ぎると、「七福園」という日本庭園に着いた。始まったばかりの紅葉にハイマツの緑と岩の重なりが心地よくまったりする。薬師の向こうに雲ノ平、黒部五郎、鷲羽、水晶･･･あれは、傘･･オゥッ･･槍まで見える･･目前には紅葉した奥大日への稜線、後ろは今歩いてきた大日と中大日。眼下には弥陀ヶ原と立山連山･･･最高の展望！それに加え奥大日への登山道がまたまた素晴らしい。稜線直下の湿原を横切って行く。サンカヨウやキヌガサソウの咲き終わった後、そして小さな湖沼、タテヤマリンドウが迎えてくれた。奥大日でゆっくり休憩し剱沢へと進む。雷鳥平はテントで彩られている。奥大日からトラバースする登山道にはベニバナイチゴがたわわに実り、ルビーのように透き通った赤い実を下げている。道々口に放り込んで甘酸っぱさを味わう。雷鳥平に近づくと今度はクロマメノキ、コケモモ、シラタマノキ等歩きながら楽にとって食べられる所に沢山生っている。剱沢まで行けばよいので山のフルーツを味わいゆっくり剱御前への稜線を楽しんだ。ここを通る人はきっとこれらが食べられることを知らないのだろう。

剱岳　大日小屋より

タテヤマリンドウ

クロマメノキ

剱沢のテン場と小屋は昔に比べたら随分離れてしまった。他のメンバ

ーがいるテントまで登って宴会をして帰るなどとてもごめんだ。宴会は二人で密やかに？小屋の談話室で賑やかに？他のパーティーと交流しながら行った。

＜3日目　別山＞せっかくなので、別山に登って帰ることにした。そして下りはまた昨日の奥大日への道を下って雷鳥沢へ。雪融けの遅い場所ではまだチングルマやミヤマゼンコウ、イワイチョウの花が見られた。

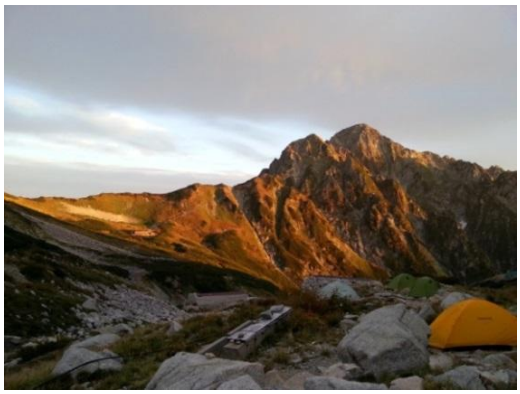
今回初めて富山側から登ることが出来た。中々な登りと、変化に富む稜線、素晴らしいやまなみを堪能。三連休にも関わらず静かな稜線歩きがゆっくりと出来た。　素晴らしい山でした。　　Ｈ　記

９月２１日（土）－23 日(月)剣岳（合宿）

L HY　KH

22 日　6:00 剱沢キャンプ場→7:00.一服剱→8:00 前剱→8:40 平蔵の頭手前（渋滞）→11:00 カニのタテバイ→11:30～12:00 剱山頂→12:10 カニのヨコバイ手前（渋滞）→13:20

カニのヨコバイ通過→前剱の肩→16:10 剱沢キャンプ場



２日目いよいよ憧れの剱岳登頂です。早朝３:００バリエーション組は静かに出発して行きました。でも私達は初めての剱岳、足元がしっかりしてからの出発を決めて待機、テン場の外も少しずつ騒がしく成ってきました。一般ルートとして最も人気が高い別山尾根から山頂を目指します。

ヘルメット・ハーネスを装着もちろんカラビナもOKです。さあ～出発です。6時剱沢キャンプ場を後にしました。剱山荘の横から取りつく最初の小ピークが一服剱、ゆっくり快適に進んでいきました。

一服剱からは途中まで本峰と間違えた前剱を目指します。急斜面で岩の多いガレ場、クサリもありました。足場を確認しながら落石に注意して登りました。でも快適です。

前剱の肩まで着くと、目の前に岩壁の本峰が飛び込んできました。スゴイ岩の塊急に緊張と不安が、まだ見ぬ“カニのタテバイ・ヨコバイ”が気に成ってきました。

前剱を少し下った辺りから動きが止まりました。渋滞です。昨日室堂の駅員さんが言った通りアリの行列です。今にも転げ落ちそうな垂直な岩壁に貼り着いている登山者が登りは、私の足元からカラフルな一本線を描いています。

少しずつ進む程に私の緊張感も高まってくるようでした。4ｍの細い鉄の橋を渡ると、ここから登りと下りが一方通行になっていました。

岩に打ち込まれたボルトに足を掛けいよいよ登攀開始です。7番目の鎖場平蔵の頭、高度感ある～、しかも渋滞、自

分が待機できる安全な場所を眼で探して確認してから鎖を登り、次の動きを待つ、この待ち時間平蔵の谷の雪渓から吹き上げる風で体が冷える。期待も膨らみます。心配もあります。9番目の鎖場がカニのタテバイです。30mの垂直の岩、3点支持で慎重に登ろう、また第一歩は岩に打ち込まれたボルトから始まりました。核心部気合いを入れ足場を確認して登りました。鎖を握る手にも自然力が入りました。無事クリアしてほっとしました。

タテバイを過ぎると動きはスムーズ、ガラガラの岩場を登りつめ　11:30剱岳登頂、剱の山頂は意外と広く暖かく天候にも恵まれて360度の眺望、いつも見ている後立山から白馬三山を反対側から今日は、見ているのです。八ツ峰も良く見えました。格別の眺めです。充実感が漲ってきました。さあ下りです。今度は、ヨコバイです。

「渋滞が予想されるから、早めに下山しょう。」とリーダー、山頂を12:00に出発して10分も経たない内に渋滞に捕まりました。今度は本当に動かない、吹き上げてくる風が冷たい、体が冷えてくる。動かなければ動かない程怖く成ってくる。岩講で教えて貰った事を何度も頭で繰り返す、最初の一歩さえクリアすればOKなのですが、落ち着いて挑めば大丈夫と教えて貰った。10番目の鎖場カニのヨコバイへのアプローチは垂直の岩、鎖に捕まりながら自分の体を安定させ、段々近づいてきます。さあ～私の順番です。赤いペンキがチラチラ見えるのだが、下を覗いて確かめる事ができない、怖いのです。不安と緊張感がマックス、足を降ろして進まなくては、いい所でリーダーの声が「もっと下、左足」しっかり足場を確認、後はヨコバイの一人占め、私の後から続いてくる人はいません、ビナで確保してトラバース足場は安定しています。鉄のハシゴに移る時少し不安定で怖かったけど、渋滞も怖さもここで終了です。後は問題無し最後の平蔵の頭を過ぎ所で、寂しさもありました。ぜひ、もう一度、剱岳に登りたいと思いました。

前剱の肩まできて、一息いれました。腰を降ろしてゆっくり見渡すとすっかり秋色に染まった別山尾根がとても綺麗に見えました。さあ、下山して今日は私達が食番です。頑張らなければ！

H記

9月21日（土）－23日（日）　剣岳八つ峰Ⅵ峰Ｄフェース（合宿）

メンバー　CL　ST　EK　FH

21 日　6:30 扇沢集合　7:30 トロリーバスに乗って扇沢出発　8:50 室堂着

9:15 室堂発　11:20 先発隊剣沢テン場着　12:40 全員テン場着

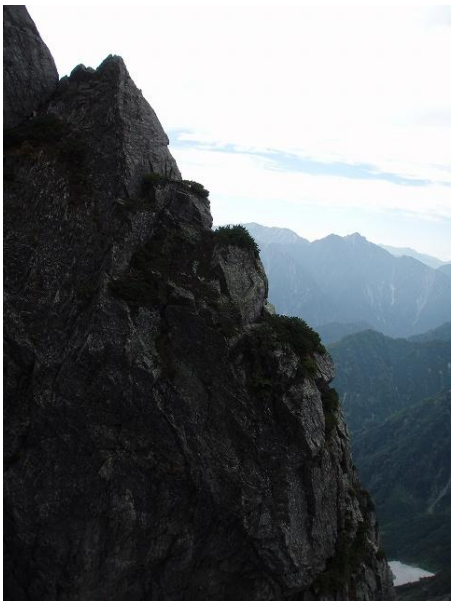
三連休の天気予報は3日間とも晴れ！気持ちは上々です。

6時前に扇沢駐車場に着きましたが、無料駐車場はほぼ満車。少し離れた駐車場にどうにか停められる場所を見つけられました。扇沢のバスターミナルは登山の恰好をした多くの人達でごった返していましたが、6 時 30 分発の始発のバスが出てしまうと閑散とし、他のメンバーもボチボチやって来て、共同装備を分担し、7時 30 分発のバスで出発しました。ぎゅうぎゅうのケーブルカー、混み混みのロープウエー、ゆったりできたトロリーバスと乗り継いで、ぐったり疲れて9時前に室堂にやっと到着。扇沢から室堂に来る間に、当初の予定のCフェースから隣のDフェースに変更になり、Cフェースしか事前に調べていなかった私は、もう少し幅広く調べておけばよかった、と少々後悔しましたが、私がトップを行く訳ではないし、と開き直って、剣沢のテン場を目指して歩き始めました。室堂もすごい人。雷鳥沢のテン場も既に数多くのテントが張ってあり、雷鳥坂を見上げると下から別山乗越まで登山者が列を成

して歩いていて、こりゃあ急がないとテントを張る場所がなくなる！と、テントを持っている私は、場所取りのため急ぐことにしました。ガンガン登って少し下りて昼前にはテン場に着きましたが、ここももう既にたくさんのテントが。広いスペースを探していると、運良く適当な場所が空いて、そこにテントを広げて他のメンバーを待つこと1時間半。汗が冷えて寒くなってきた頃、みんながやって来ました。全員でテントを立て、早速ビールを買って乾杯。ビールを買うのも、剣沢小屋まで行かなくてはならず、一苦労でしたが。13 時過ぎから夕食のおでんを作り始め、19 時頃まで延々と食べ続け、山のようにあった食材もいつの間にかなくなり、いろんな話で盛り上がりました。（周囲の方々にはくだらない話題でお耳を汚し申し訳ありませんでした）

22 日　3:00 テン場出発　6:50 取り付き着　7:10 登攀開始
　　11:10 D フェースの頭着　14:30 剣岳頂上着　17:10 テン場着

私たちバリエーション組は3時にテン場を出発しました。昨晩は夜でも月明かりで明るかったのですが、出発時には薄い雲がかかり月明かりはなく、暗闇の中、ヘッドランプを点けて歩き出しました。もう既に剣岳の中腹にも点々と小さな光が動いて見えました。剣沢小屋から 15 分くらい下って剣沢雪渓の上に乗り、アイゼンを装着し長次郎の出合いを目指して下っていたら、いつの間にかに長次郎の出合いを通り過ぎていました。出合いまで登り返し、長次郎谷に入りました。長次郎を登っていると空が白み始めました。私の遠～い昔の記憶では9月でもＶⅥのコルまで雪渓を歩いて行けたので、先行パーティーが雪渓上から左岸の岩場に移動をしていたのも気に留めず、そのまま雪渓を突き進もうとしていたら、岩場にいた人が、その先雪渓切れてるよ、ここで岩に移らないと危ないよ、と教えてくれました。そういえば、テン場受付前の案内板に、Ｉ峰ルンゼの先で雪渓が崩れているから左岸の岩場に移ること、という注意書きがあったなあ、ここのことだったのか、と思いながら、少しトラバースして岩場に。後から来たガイドさんの話では、最近は9月になるとそこはだいたい崩れているとのこと。やっぱり近年雪減っているんですね。そこからは取り付きまで歩きにくいガレ場を進むと、Ⅵ峰が見えてきました。案の定 C フェースは順番待ち状態。D フェースにして正解だったね、と取り付きまで来ましたが、富山大ルートの取り付きがわからずしばらくＤフェースの下を右往左往しましたが、久留米大ルートを登っている人（日本山岳会の合宿だったらしい、上手いはずです）に教えてもらって早速スタート。まずはTさんがリードで行きましたが、10m くらい登った所で難儀していました。下から見てもあまりホールドが見えず難しそうです。どうにか乗り越え、次私。取り付きは陽の当たらないルンゼで身体が冷えてしまい、登り始めは身体がこわばっていましたが、さっきの難所はセカンドの私は引っ張り上げてもらってどうにかテラスに辿り着き、Kさんも登って来て2ピッチはKさんがリード。簡単そうに登って行ったので簡単かと思ったら、少々悩む所もありビレーのテラスも狭くてビビりました。3ピッチは左に行った方が楽そうに見えましたが、左に行くと後が大変とのこと。初めて来たはずなのによく知っているなあ、と感嘆。後半、セカンドはまっすぐ壁を登ってもいいと言われたのに、楽なハイマツ帯に行ってしまい登ってから後悔。4ピッチは左にトラバース気味に登ってリッジに出て、宙



に浮いているような高度感をタップリ味わえます。5ピッチも高度感満喫。ハーケンが少なくて、滑落するような難易度は無いにしても、これをリードで行くのは気持ち的にしんどそうと思いました。6ピッチは足元にハイマツも出てきて安心して D フェースの頭に着きました。爽快だった D フェースと別れるのはとても名残惜しいですが、まだ先は長いです。きつかった靴を履き換えて、次に目指すは八つ峰の稜線を超えて北方稜線を超えて剣岳本峰です。八つ峰の稜線はしっかりした踏み跡の巻き道があって、これなら楽勝で行けるかと思ったのですが、途中、大きな岩を乗っ越す個所があり、私はKさんを踏み台にし、Tさんに持ち上げてもらって、どうにか通過。ここは八つ峰の頭を通って懸垂下降をするのが一般的だったんでしょうか？ほどなく池ノ谷乗越に辿りつき、踏み跡を辿って剣岳頂上へ。北方稜線は人が多くて、何かと待つことも多かったですが、14 時 30 分に頂上到着。ほぼ予定通りです。それまでは天気良く、周囲の山々が綺麗に見えていたのですが、長次郎ノ頭の頃からガスに巻かれ、頂上では何も見えませんでした。剣岳登頂組がテントで私達の帰りを待ちわびているかと電話をしてみると、なんとまだ前剣にいるとのこと！なぜ？という疑問が頭に中を駆け巡りましたが、それからしばらくしてその謎は解けました。頂上からしばらく下りると、その先に渋滞が。カニの横バイ待ちでした。確か横バイはそこからかなり先です。どれだけ待たなくてはならないかと思うと、ヘッデンで歩きたくない私は憂鬱になりました。20 分くらい待ったところで、もう登って来る人はいないから希望者はカニの縦バイを下りていいという話になり、先に行かせていただきました。その先も登山者は多かったですが、暗くなる前にテン場に到着。ちょうど鍋がひっくりかえり、ほうとうが土の上に散乱しているところでした。ほうとうを拾って丁寧に洗って鍋に戻して、帰ってくる人達を待ちました。

23 日　7:30 テン場出発　8:50 別山頂上　11:50 雄山頂上　13:30 室堂着

天気はうす曇り。私は久しぶりに別山～雄山の縦走をしてみることにしました。ガスが多くてあまり展望はききませんでしたが、所々花も咲き、前日までとは違う山を楽しめました。ただ人が多かった。大汝から一の越までは団体客も多くスゴイ人混みでした。登って来る人もイライラしているらしくケンカ腰で文句を言われたり。13 時半過ぎに室堂に着き、帰路を急ぎました。アルペンルートは思ったほど混んでなくスムーズに扇沢に着きました。

感想；天気に恵まれ、登攀も楽しめて、いろんな話ができたし、人との出会いもあり、とても充実した合宿でした。天気が良かったので、もっとたくさんの人が来られたらもっと良かったと思います。　H記

10月 13 日（日）　幽の沢 V 字岩壁右ルート　（個人山行）

10 月 13 日（日）

CL Ｋ Ｔ　　天気：曇り

行程：6:00 谷川岳ロープウェイ駐車場～7:00 幽の沢出出合～カールボーデン上部～10:00V 字岩壁右ルート取付～V 字岩壁右ルート終了点～15:00 堅炭尾根～16:00 芝倉沢出合～一の倉沢出合～17:30 谷川岳ロープウェイ車場

写真１懸垂

前夜泊で谷川に入る。午後 10 時頃水上に到着すると、なぜか雨が降っている…天気予報は晴れのはずでは…と疑いつつ、谷川岳ロープウェイ駐車場へ。そこでKさんと落ちあう。雨は小雨から時々大粒の雨が…明日はどうしよう？と相談しつつ、とりあえず朝起きて考えることにして寝る。

AM6 時前に起床し、外をみると雨は止んでいる。風が強いこ

ともあり、路面も乾いているので、とりあえず行けるところで行ってみようということになり 6 時過ぎに出発。今回帰り楽をしたいということで、互いに自転車を車に積んできた。さすがに最初は急傾斜で自転車を押して登ったが、途中から傾斜が緩くなり、自転車に乗って一の倉沢までいく。歩いている登山者を追い抜き、あっという間に到着し時間短縮できた。そこからは砂利になるので、私の自転車では漕ぐのが難しく、歩き 15 分ほどで幽の沢出合に到着する。幽の沢は当然水が流れているが、今日は沢グッズをつけてない。ジャブジャブ水に浸かるわけにはいかず、水を避けての遡行となる。沢好きとしてはなんか悲しい。大滝といわれる手前で難所あり。左岸は崖。中央は当然水。必然的に右岸を歩くことになるが、沢に向かって落ちたナメであり、滑ればそのまま水の中へドボン。傾斜もあり、今日は落ちるわけにはいかない。いい手がかりを探しながら歩くと、上へ上と上がってしまい、今度は降りられなくなった。仕方がなく、どこかビレイポイントの木を探して、そこから懸垂で降りることにする。そこで二人ともハーネスをまだつけていなかったことに気がつく。足場は悪いが、小さなスペースを見つけて交替でハーネスを装着し、懸垂で無事沢岸に降りてこられた。（写真１）そこからは特に難所はなく、しばらく歩くと、カールボーテンが見えてきた。見事なものである。（写真２）

写真２　カールボーデン

写真３　草つきルンゼ

カールボーテンを目の前にして一休憩する。幽の谷を見ると、1組のパーティが取り付いていた。それ以外はなし。10 月の連休だというのに、こんなもんなのか…中央壁右フェースの取り付きまで、3 級程度ということでアンザイレンとガイドにはあるが、特に問題がないようなので、そのまま取り付きテラスまで登る。そこでアンザイレンをする。まずは、リンネの流水溝をトラバースして1ピッチ。そこから直上。岩場は所々濡れている。数ピッチを登るが、ガイドに書いてある通り支点はわかりにくい。トポ図と照らし合わせるが、途中からここが何番地？なのか、わからなくなった。スラブを登りきったところで、ルンゼ内のチムニーを登る。ここがⅣ+。岩は濡れていて滑る。ここでようやく場所を認識できる。そのチムニーを登りきったところから、左の草つきルンゼに入っていく。ここがⅣ。（写真３）ここも足元がヌルヌルで滑る。クライミングシューズでの草つきはよく滑ることを改めて知る。そこを登りきると視界が広がるが、天気は曇りで、景色はいまひとつかな。ガイドに書いてある通り、ここから先はそれほど難所もなく潅木帯を登る。（写真４）登りきったところに、とても快適なピークがあった。ここになぜか真新しいペツルが打ってあり、そこが石楠花尾根の上部であることを後で知る。本来はここまでがアンザイレンで登る。しかし、私たちはまだ危ない箇所があるかも？ということで、アンザイレンを続け、結局気がつくと堅炭尾根まで出てしまった。無事に 15 時登攀終了。尾根は風が強く寒い。登攀の後片付けとエネルギー補給をして下山。下りの登山路は

写真４　灌木帯

比較的整備されており歩きやすかった。芝倉沢で土砂崩れがあり道が寸断しているとのことであったが、迂回路もありそれほど問題なく歩ける。17 時頃には一の倉沢に到着し、そこから自転車でほとんど漕ぐことなく一気に下る。速い。日没ギリギリに下山。天気は快晴ではなかったが、なんとか雨に降られることなく、今回の山行は終了。

先行パーティとの話から、前日の谷川は昼前から雨で大変だったらしい。そして今日は曇りと強風。ちなみに、北アルプスは快晴だった…この連休の天気予報は、ほとんどの地域で晴れであっても、この谷川は地形的に別物。確かに、沢に来てもすっきり晴れている記憶がないことを思いだした。300 円のお風呂に入り、解散し、仮眠をいれながら、何とかその日のうちに帰宅できた。　　Ｔ　記

10月12日（土）－13 日（日）　餓鬼岳唐沢岳（個人山行）

L.SO

10 月 12 日（土）　一日目、天気：晴れ一時みぞれから雪

7：30/50 白沢駐車場→8:00 登山口→9：00 魚止ノ滝→11：30 大凪山→14:10 餓鬼小屋

紅葉の登山道と秋の稜線歩きを楽しみに、餓鬼岳と唐沢岳に行ってきました。白沢の登山口より、紅葉の沢沿いに、紅葉の滝（写真1、は紅葉の滝を高巻き魚止ノ滝へ）、と魚止ノ滝（写真2、同様に左岸を高巻く、）を経て最終の水場へ、これより樹林帯の急登、さらにザレ場の急登を登って大凪山へ、前後して登っていた埼玉ログハウス住人へ、「急登でしたねぇ～」と声をかけたら、「そうでしたか？」とそっけない返事、ちょっとショック。後で調べてみたら、山渓名急登 100 選（標高差 1650m、平均斜度 13.6°）の登山コースでしたが・・・。小屋直前の百曲がりの急登あたりで、大きな虹が大町方面にかかりました。みんなで「綺麗ねぇ～！！」などと言っていたら、まもなくミゾレ、急いで小屋に行っても「飲むだけかぁ～！？」と雨具に着替えのんびり小屋へ向かいました。

写真１　滝の高巻

写真２　岩魚止ノ滝

雨具は濡れることなく小屋に到着、先ほどの埼玉の住人、静岡の単独さん達、そして南信の山岳会の人達と結局は大宴会、そのころミゾレは雪に変わり積雪3センチ、ただし登山道にはほとんど影響ありませんでした。また、夜には晴れて、久々に満天に輝く天の川を見ることができました。

写真３　餓鬼岳小屋より富士山

写真４　餓鬼岳より裏銀

10 月 13 日（火）　二日目、天気：晴れ

6：00　餓鬼小屋→6：10/20　餓鬼岳→8：30　餓鬼のコブ→9:00/10　唐沢岳

→11:40/12:30　餓鬼小屋→16:30　白沢登山口

朝食（5 時から）をとり、ご来光を眺め（写真 3）小屋を出発、準備

写真５　唐沢岳と餓鬼のコブ

に手間取り唐沢岳往復組の最後の出発となりました。餓鬼岳の頂上は風が強く、また気温も低く(—2℃)寒かったのですが 360° 展望に、例によって独り言の山座同定、特に裏銀座の山々(写真4)が最高でした。

餓鬼岳から稜線つたいに展望台のピークへ、ピークから唐沢岳を眺める(写真5)限り、往復5時間は余裕と考え、樹林帯へ向かいました。餓鬼のコブも左に巻、さらに樹林帯へ、もう少し「稜線歩きが楽しめるのかなぁ～」と思っていただけにちょっと残念、しかし寒風にさらされることもなくちょっと幸せ、唐沢岳の頂上付近(写真5. の花崗岩の白い部分に)に到着、先発組に「頂上はすぐですね？」と訪ねたら「急登が残っているので、頑張って･･･！！」と意外な返事、結局頂上直下を左側に一旦下降し、再度頂上に急登する必要がありました。

写真６　餓鬼小屋と餓鬼岳

ともあれ唐沢岳の頂上で、またまた 360° の展望を堪能しました。

餓鬼岳小屋に戻り、小屋番さんに下山の挨拶、しかしあまりの天気に松本の労山さんと盛り上がりまたまた山座同定、深まる秋を楽しみながら下山しました。

O　記

10月14日(月)鳥甲山(例会山行)

L YU　HY NT

ムジナ平　6:40－白くらの頭 9:40－頂上 11:20－発 12:00－ムジナ平 15:20

締切になって急に参加者が 2 名が希望されたので決行がきまった。

Yさんの車でTさんの家が分からないので近くのコンビニ＋コーヒ店 5 時着をめざすが話をしていたら方向が分からなくなり少し迷ってしまった。(失敗1)

奥志賀林道をのぼり栄村方面へ。ムジナの駐車場の駐車場一度すぎてから間違えに気付きなんとか到着。すでに 10 台くらい車がきていた。なぜか車に酔ってしまい吐き気がしていた。(失敗2)

いままで中央線の「しなの」で酔ってしまったことがあるがまさか車とは。ついてない。今日は最初から調子が悪い。むじな平からのゆるやかな登山道をしばし登る。水場がありと書いてあったが涸れていた。ブナ林が続く良い道も終わり急登になる。10mくらいのカンテの岩場があり新旧おりまぜて鎖がある。最初は固定してない梯子をのぼりゆらゆら揺れて登りにくかった。そこに元気なお兄ちゃんが出現　鎖を使わずさっさとのぼる。この兄ちゃんは白クラの頭で下ってきて早いのには驚いた。ここらへんから道がマジになり登りに杖を使っての登ぼったり杖を放して岩を使った登ったりして筋肉を大分使う。

地図でみると1705m峰が昨年登ったクラックの布岩の頂上になるようだが柱状節理の岩場は良く分からなかった。ここらは稜線でところどころガレて切れていて怖い。鎖や針金がでてきて有難く使う。1705m 峰から切れている道を注意しながら登る。天気はピーカンの天気。山がみえるが分からないのが残念。解説本によると白砂山　佐武流山　苗場山が見えるらしい。最初から最後まで雲一つなく良く見えた。あまり暑いので下着を脱いでいたら(失敗3)若い夫婦連れがきて挨拶する。いつも最後尾なのであとで聞いたらなんとグーテンのSさん夫妻であった。Sさんはとっこさんとしてなじみが深いし会報でお世話になってます。

初めてお会いできて良かった。なにせ入会以来フリークライミングしか参加してないので普通（？）の会員の顔を良く知らないのです。彼女らは周回して屋敷の方に行く。自動車一台でどうするのかと思ったらなんと自転車を屋敷にデポしておいてムジナ平まで一人が自転車で車を取りに行くのだ。頭いいなと感心してしまった。次回はこの手を使って是非周回したいものだ。ところで車に乗ってからお腹が痛い症状があったのが白クラの前でがまんできなくなったが（失敗4）

なにせ稜線は切れていて用足すことができない。鞍部でやっと広いところがでたので

なんと腹の痛みのおさまった。こんなことは 5 年間なかった。今日は車酔いと腹痛で調子がでない。白クラの頭（クラは実はここは漢字　山へんに品と書く字はでてこない。どうしたらでてくるのだろう。教えてください）を過ぎてからなんと下り下りでがっくりした。せっかく稼いだ高度またお返しとは。誰がこんなルート作ったのだと文句がいいたくなる。伊部さんによるとカミソリ岩があると書いてあるが分からなかった。しかし　蟻の戸渡りでなく泥の戸渡と命名したいところがあり少しびびる。泥で固めたリッジで鉄棒（6mmくらい）で固めてある。鎖が２列ありそれを持って渡る。落ちればどちら側もお陀仏の場所。今にこの泥が雨に流されて消えるのだろう。そうしたらどうなるか？今日は寒いかもしれないと魔法瓶600mlにお湯をいれてきたら頂上では残り少なくなって水不足になった。（失敗5）

もっとも他の二人も水はほとんど飲んでしまい駐車場で水　水と思っていたらなんと駐車場の水場がありそれで飢えをしのんだ。味は良かった。いつもは生水は敬遠していたが渇きには勝てなかった。最後に屋敷ルートと合流するところから勾配がきつくなり喘ぎながらやっと登る。頂上は広くゆったりしている。名古屋からきて栄村で一泊して登ったシニア 3 人組と夫婦連れと親しく話す。おおむねコースタイムで登れたようだ。12 時に下山する。車が沢山あったがみんな周回したようだ。下りは膝にこないようにゆっくり下り駐車場に戻る。あんなにあった車はほとんどない。

帰りの車で松茸ごはんの代用の作り方をTさんに教わる。帰宅後ばば（家内）にお願いしたところ早速作ってくれたがあっさりしておいしい。どちらがうまいかって。本物を食べるには千円札が何枚もいるので比較できないのです。奥志賀林道をもどり帰宅の途につく。Tさんの家に着くころには真っ暗となっていた。今回5の失敗を重ねてしまったが次回の糧にしたい。登り　規格では 4 時間 20 分です。

U　記

10月27日（日）　男体山（例会山行）

天気：晴れ

行程：駐車場二荒山神社中宮 6:30　五合目 7:40　八合目 8:55　9:45 頂上 10:00　12:45 二荒山神社中宮

大・小真名子山～女峰山縦走中止の替わりの男体山。台風一過の秋晴れに恵まれ入山料を払うために社務所へ。

『やまふみ』11月号

「登山（拝）期間は 10 月 25 日で終了。遠路知らずに来たようなので特別に登山を認める。」旨の説明後、お守りを頂き閉門となった登拝門の横から入山。

いきなり道も荒れ気味な急な坂の連続。三合目から四合目は車道歩き、紅葉が美しい。六号目を過ぎる辺りから道がうっすらとした雪（小さな氷粒状）に覆われ始める。「下山時には滑らないように気をつけなくては」と話しながら登る。

標高が上がるにつれ大きく成長した霜柱やつららが見られるようなる。風も冷たくなり薄い手袋の指先が痛くなったので厚手の手袋に変え、ウインドブレイカーを着用。晩秋の山の気象変化を再認識。

頂上に着くと木々には真っ白な霧氷。風も強く寒いので記念写真を撮って早々に下山。途中でTさんの靴が岩に挟まる。靴を脱いで手で外そうとするも外れ無い。登ってきた人も加わって木の枝をテコ代わりにするも枝が折れてしまった。

みんなで代わる代わる試すが外れない。手伝ってくれた人が再度挑戦するとやっと外れた。押しても引いても駄目なので、回したら外れたとのこと。感謝！感謝！

後の人が靴を挟まぬよう、岩を砕いて隙間を広げて再び下山開始。

太陽の位置の関係が良く、真っ赤や黄色のあでやかな紅葉、眼下の草紅葉に彩られた戦場ケ原などを満喫しつつ下山。長野市から最短距離で180km弱、遠い道のりに十答えてくれた日光の紅葉に満足した 1 日。

来年は、女峰山方面から男体山を眺めてみたい。

PS：帰路金精峠に近づくと、道路に雪は無いものの、金精山、温泉ヶ岳等は雪化粧をしていた。トンネルを抜けても周囲の山の木々には雪が積もっていた。

Y記

10月27日（日） キノコ狩り

Ｌ　Ｍ　Ｋ　ＫＫ　Ｔ　Ｓ　Ｋ　Ｕ　会員外１名

生まれて初めてキノコ狩りに参加した。朝の予報では栄村は午前は雨で午後晴れ。8 名集合　はるばる横浜から来た方も。

志賀方面だが自分が行く道とはまったく違う道路。どこを走っているか分からない。高社山が左に見えるので反対側を走っ

ているようだ。雨足はどんどん強くなる。長野市は晴れていたがことらは予報どうりの雨なのでついに方向転換することになりなめこでなくクリタケだそうだ。それにしてもすぐに別の場所が転換できる懐の深さがすごい。18 号に出会えてやっと現在地が把握できた。カヤノ平は雨で途中で変更して飯縄方面に行く。こちらに近づくにツレテだんだん晴れてきた。駐車場がなんと満車であった。いろいろ場所をみつけてなんとか駐車した。

いざ出陣　濡れないように河童に着替えたがそれは杞憂だった。あるくにつれてかっぱが蒸れてきて暑くてたまらないし第一ほとんど露がない。前日結構降ったのに。森の中はけっこうからからして河童なしでも全然濡れなかった。ある程度登ってから林のなかに入る。ちょっとはいると道がなく方向が分からなくなるので心配になった。「あった！」声にかけよるとすばらしい完璧なクリタケの群生におめにかかる。

　最初はさっぱり出会えなかったが一回だけ群生に出会う。これが山の恵みかと思うと感激した。経験豊かな方いたので次々に成果がありすこし採らせてもらい自分のビニールの袋も膨らんできた。

今度は完璧な毒キノコ　見事なまでに美しい。ディズニ―の不思議な国のアリス（？）にでてくるお菓子にそっくり。ここから徐々にくだる。三井さんの判定でくりたけとのご宣託なので帰宅後味噌汁にしたらその味は絶品でした。野生のきのこはやはり味が違う。

　無事帰還した。6 人なのでガソリンが 400 円安い。来年もぜひ参加したいものだな。

自分だけではキノコの判別ができないので到底無理。来年は　海谷に遠征するという話もあり盛り上がった。　　Ｕ記

11 月 3 日　甲府幕岩

Ｌ　Ｓ　Ｔ　ＫＫ　ＴＨ　Ｈ　Ｓ　Ｕ

平成学園 5:30－駐車場 8:30－4:30　発－長野　8:00

Ｈさんを千曲 SA で拾い一路幕岩へ　佐久でＴＨさんと合流　Ｔさんは反対側から到着

しばらく前の予報では雨だったので半分あきらめていたが晴れマーク　ラッキー

駐車場ば相変わらず混んでいたがなんとか駐車した。入口のなべちゃんはべったり取りついていたので奥へ。上級組のＳさんとＴさんは別ルートへ。初級組はＴさんの神の手が頼りとなった。

まずは森の唄 10a　となりの HIVE が空くのをまつ。Ｋさんが TR をかけてくれたのでわたしも登る。HIVE の前半５．８のルート　そこから 10a となる。1 年ぶりの HIVE なんとか登る。Ｈさんも５．８の挑戦。中間点はテラスとなっていて居心地がよいのですっかり気にいりなかなか降りてこなか

ったが最後はあきらめておりてくれました。

HIVEと重なるジューンブライド11aは試みる人はいないようだった。HIVE の我々の前はツエルブに女性が登っていて見事な登りでみんな感心した。つぎはさらに奥にいき「森からのおくりもの」　私も挑戦大部テンションかけてしまう。しかしかちの連続のルートですっかり気に入る。次回はリードに挑戦する。1時半になったので昼飯。私はラーメンを食べてみた。なかなかうまかった。Ｈさんはベジタリアンでキャベツの千切りをバリバリ食べてそのおかげでパワー全開です。(ポパイのホウレンソウですね「この意味が分かる人はかなり年齢若い人には分からないでしょう」　いずれはドロミテを制覇しそう。つぎはペンタゴン　ここは動画を撮影　ここでＳさんがムーブを会得Ｋさんより免許皆伝の沙汰となる。ずいぶんと楽になるようだ。3時になったので帰り支度をしてイエローマウンテンに行くが少し待って登るがここでポチポチ小雨があたり時間切れ。ＨさんとＳさんが最後リードに挑戦し軽やかにリードして終了した。ＳさんとＴさんは別なのでどこに登られたのは分かりません

Ｈさんは錫杖の岩をめざすそうでやるき十分です。わたしもＴＨさんのドロミテに負けずアイガーを目指そうかな。グループのなかに女性がいるとなぜか周りのクラーマーも親切だ。
私は2本しか登らなかったみなさんはすべてのぼりおおいなる成果があったようだ。

Ｕ記

編 集 後 記

主人の方の車を新しく買った。「とにかく車中泊が快適に」ということで選んだから、そのままでも結構いける車なのに、そのサイズに合わせてマットレスと布団を買い、ほとんど寝台車状態。荷物はシート下に入れられるから、今まで面倒だった寝るときの荷物の移動がなくなり、折り畳み自転車も載せたままＯＫ、一人が運転している間に後ろで睡眠もアリ。…だけどねぇ、二人で出掛けられる時期は本当に限られているし、いったい年に何回車中泊をするというんだか。とりあえず納車からこのひと月毎週出掛けて、早くも今年は締めくくりました（泣）。／とっこ

秋も深まり最近は肌寒い日も増えてきたというのに、私はいま自宅で蚊に悩まされている。真夏なら数匹の蚊ぐらい仕方ないと思えるが、この時期になぜ？と少々納得いかない感がある。外は寒いからあったかい室内に避難してくるのだろうか？蚊って夏じゃないの？一年中いるの？雪が降る頃にはいなくなっていてほしい…。ところで蚊の寿命ってどのくらい何だろう？／カタカナ

『やまふみ』11月号

最近 NHK のテレビで月の話が放映されていた。地球に四季があるのは少し地軸が傾いているからしい。そしてそれが安定しているのは月のおかげ。どうやら現在は月は絶妙な位置にいるとのこと。ところがところが月はすこしずつ地球から離れている。ずーと将来離れすぎると大変なことになる。四季がなくなるどころか地球の地軸が揺れ揺れして天候が不安定になる。お月様がそんなに重要なんて教わらなかった。お月様がんばってくれと言いたくなる。／ゾラ